

農業技術情報

令和7年9月3日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128
JA幕別町 0155- 54-4118
JAさつない 56-2131
JA帯広大正 64-4591
日甜幕別原料事務所 54-2756
幕別町農林課 54-6605

★各作物の生育・作業の遅速（幕別町9月1日）（ ）内は平年値

作物名	遅速 日数	生育および作業状況	生育期節
馬鈴しょ	早 1	上いも数 13.7 (10.9) 個/株 1個重 73.4 (101.3) g でん粉価 10.2 (13.3) % 収穫始 8/30 (8/25)	茎葉黄変期 8/7 (8/8)
大 豆	早 8	茎長 67.1 (75.5) cm 葉数 9.1 (9.8) 枚 莢数 680.9 (643.3) 個/m ²	
小 豆	早 7	茎長 76.4 (65.4) cm 葉数 14.3 (11.9) 枚 莢数 380.4 (373.6) 個/m ²	
菜 豆（金時）	早 5	茎長 53.0 (50.1) cm 葉数 4.8 (4.0) 枚 莢数 163.4 (145.4) 個/m ²	成熟期 8/28 (9/2)
てんさい（移植）	遅 1	根周 37.1 (39.1) cm	
てんさい（直播）	遅 1	根周 29.5 (30.1) cm	
牧 草	遅 1	草丈 88.6 (89.2) cm 2 番草収穫始 8/16 (8/17)、収穫期 8/28 (9/1)	
サイレージ用 とうもろこし	早 6	稈長 267.0 (274.5) cm	糊熟期 8/28 (9/3)
たまねぎ	早 7	球径 7.3 (7.7) cm 収穫始 8/8 (8/15) 収穫期 (9/11)	

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。

薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

畑 作

<秋まき小麦>

透排水性の劣るほ場では、事前に心土破碎などにより耕盤層を改善しましょう。は種前に必ず土壌酸度を測定し、**pH5.5 以上**を目標に酸度矯正をしましょう。

各種病害対策のため、自家種子の使用は避け、ほ場の乾燥を待っては種してください。

1 は種時期

越冬前の葉数は5葉を目標に、4～6葉を確保できる時期が「は種適期」です。越冬前に適正な生育量を確保するため、表1、2を参考に適期は種を心がけてください。

近年、積雪が少なく土壌凍結が深く入ることがあるため特に遅まきでは凍上害（根浮き）が心配されます。また、収穫時期に遅れ穂が目立つほ場もあり、品質低下の要因となるリスクもあるため、適期は種に努めてください。

十勝管内では未発生ですが、なまぐさ黒穂病の耕種的防除も併せて行いましょう！

① 必ず消毒済みの採種ほ産種子を使用し、適期は種を目指しましょう

② は種床は膨軟にしすぎず、適正は種深度(2~3cm)を守りましょう。

深まきは出芽までの日数を要し、感染のリスクが高まります。

表1 小麦の極端な早まき、遅まきのリスク(R5「北海道の小麦づくり」一部改変)

	リスク
極端な早まきの場合	・過繁茂になりやすい。 ・生体を維持するための消耗が大きく、寒・冬害を受けやすくなる。 ・地上部の通気性が不良となり病害虫の発生を助長する。 ・茎が軟弱傾向になり倒伏の危険性がある。 ・縞萎縮病の感染期間が長くなるため、感染のリスクが高まる。
遅まきの場合	・越冬前の生育が不十分となりやすく、寒害や凍上害(断根、根浮き)を受けやすくなる。 ・は種時期が遅くなるほど雪腐病の発病度が高まり、減収・品質低下の要因となる。 ・成熟期が遅れ、雨害(穂発芽等)にあう危険性が高まる。 ・遅れ穂が多発しやすくなり、登熟ムラや粒の充実不足等が起きやすい。 ・地温が低くなるため出芽に日数を要し、なまぐさ黒穂病の感染リスクが高まる。

2 は種量

は種量は、適期は種で 140 株/m² を基本とし、は種時期の早晚により、は種粒数を調節します(表2)。また、出芽率が低いほ場では、適宜は種量を増量します。

表2 地帯別は種時期・は種量の目安

(単位:kg/10a)

観測地点	~9/20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10/1	2	3	10/3~
明倫	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	5.8	6.3	6.9	7.6	8.4	9.2	10.1	10.4	10.4	10.4
相川	5.7	5.7	5.7	5.7	5.7	6.1	6.7	7.3	8.1	9.0	9.8	10.4	10.4	10.4	10.4
南勢	5.7	5.7	5.7	5.7	6.2	6.8	7.5	8.2	9.1	10.0	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4
糠内	5.7	5.7	6.2	6.7	7.4	8.2	9.0	9.9	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4
駒畠	5.7	5.7	6.2	6.7	7.4	8.1	8.9	9.8	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4	10.4
帯広	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.9	6.5	7.1	7.8	8.8	9.8	10.2
日新	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.9	6.4	7.0	7.8	8.5	9.3	10.2	10.2	10.2	10.2

※□内は「葉数5葉程度」、斜体は「6葉程度」、太字は「4葉程度」となるは種日を指す

※積算気温に基づくは種時期は各地点 2015~2024 の 10 年平均値に基づいて算出

※千粒重は本年幕別産 36.6g、札内産 35.9g、出芽率90%として計算

<参考:は種量計算例>

千粒重 36.6g、発芽率 90%の種子を 140 粒/m²で計算する場合。

$$\begin{aligned}
 & \text{[は種粒数(粒/m}^2\text{)]} \div \text{[発芽率]} \times \text{[千粒重(g)]} \div 1000 = \text{[は種量(kg/10a)]} \\
 & \text{[140(粒/m}^2\text{)]} \div \text{[0.9]} \times \text{[36.6(g)]} \div 1000 \div 5.7(\text{kg/10a})
 \end{aligned}$$

※出芽率が低いほ場は、[発芽率]を低く設定し、は種量を計算しましょう

3 は種深度

- ・は種が深すぎると二段根になり、出芽ムラも重なり初期生育は劣ります。均一な出芽と良好な初期生育を確保するために①砕土を細かくしすぎない、②は種前に鎮圧する、等の処理を行い、は種深度は2～3cmとします。
- ・浅まきの場合、出芽は早くなるが、根張りが悪くなりその後の生育に影響してきます。また、深まきした場合は出芽が遅れ、越冬前の生育量が足りずに雪腐病発症の危険があるため、適正なは種深度を守りましょう。

4 施肥量

越冬前に小麦が吸収する窒素は4kg/10a程度です。リン酸、カリ、苦土は全量基肥として施用しましょう。過剰な基肥施用はコストが無駄になるほか、越冬後の茎数コントロールが困難になります。また、土壤凍結が浅い年では下層に流亡して地下水・河川汚染の原因となりますので、適正な施肥を行いましょう。

表3 は種時の施肥量(kg/10a)(北海道施肥ガイド 2020 より)

土壌型	低地土	泥炭土	火山性土
窒素	4		
リン酸	12	14～15	
カリ	9～10		
苦土	3～4		

基肥施肥例:「BB850Cu」×50kg/10a(N-P-K-Mg= 4-12.5-5-2.5 kg/10a)

「BB660Cu」×70kg/10a(N-P-K-Mg= 4.2-18.2-7-3.5 kg/10a)

※銅欠乏が見込まれる場合は、銅(Cu)入りの肥料銘柄を選定しましょう

5 コンタミ(異種、異品種子実混入)に注意

- ・コンタミをさけるため次の作物後には、秋まき小麦(きたほなみ)の作付を避けましょう。

コンタミの恐れがある「きたほなみ」の前作物：そば、異品種小麦

- ・やむを得ず異品種小麦などの後に作付する場合は、耕起前の除草剤処理(7月17日の農業技術情報参照)などの対策を徹底します。

6 雑草対策

次年度産秋まき小麦のは種前後の除草は、優占雑草種に応じた除草剤を選択してください。雑草が小麦に与える害としては「養水分の収奪」、「病虫害繁殖の助長」など様々なものがあり、その結果収量、品質の低下に繋がります。そのため秋のうちに除草剤を適正使用し、雑草対策を行いましょう。

秋まき小麦ほ場のイネ科雑草は越冬後に対処できる薬剤がありません！！

必ず秋処理を行って下さい。

<雑草の種類に応じた除草体系例>

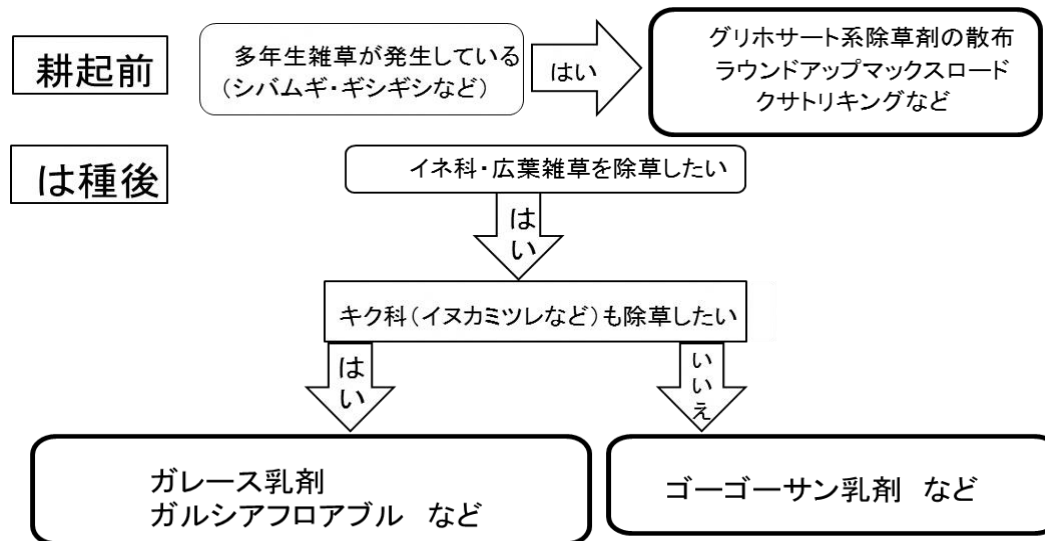


表4 秋まき小麦は種後除草剤例

薬剤名	処理方法	使用時期	10a 当 薬量(ml)	使用 回数
ガレース 乳剤	全面土壌散布 (雑草発生前)	は種後～出芽前	200～250	1回
	土壌兼 雑草茎葉散布	小麦出芽後～出芽揃	150～250	
		麦の1～3葉期 (雑草発生前～発生始期)	100～150	
ガルシア フロアブル	全面土壌散布	は種後出芽前(雑草発生前)	150～250	1回
	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	小麦出芽直前～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	100～200	
	【大豆間作向け】 雑草茎葉散布 又は全面土壌散布	小麦4～6葉期(越冬前) スズメカビタ4葉期まで	200～250	
ゴーゴーサン 乳剤	全面土壌散布	は種後～小麦2葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期)	300～500	1回
ボクサー	全面土壌散布	は種後～小麦4葉期まで (雑草発生前～発生始期)	400～500	2回
エコパート フロアブル	雑草茎葉散布	秋期: 小麦2～6葉期	50～100	2回

※耕起前の除草剤例は7月 17 日の農業技術情報及び「農作物病害虫防除基準」を参照してください。

<てんさい>

1 「褐斑病」「ヨトウガ」「シロオビノメイガ」の防除

8月後半は降雨もあり、褐斑病が進展しています。また、ヨトウガの発生は少ない状況ですが、シロオビノメイガの成虫が多数飛来しています。表5の薬剤で防除を実施しましょう。

表5 9月5日頃からの防除例(最終)

対象病害虫	農薬名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用 回数
褐斑病	グリーンダイセン M 水和剤 または グリーンペンコゼブ水和剤	M3	400～600	21 日	5回
ヨトウガ	ベジホン乳剤 または プレバソンフロアブル5	1B 3A	1,000～2,000	21 日	4回
		28	5,000	前日	2回

※「シロオビノメイガ」にはプレバソンフロアブルをご使用ください。(カスケード乳剤もシロオビノメイガに登録があります。)

※収穫前日数に十分注意してください。

2 「葉腐病」防除

葉腐病が散見されています。発生が目立つ場合は「モンカットフロアブル 40」1,000 倍(収穫7 日前・5回まで)又は「リンバー顆粒水和剤」4,000 倍(収穫 7 日前・3 回まで)で防除しましょう。

3 床土の準備

来年用の床土を準備する際には、天候が良い日に病害発生のおそれのない土を用意しましょう。pH は 6.0～6.5 に酸度を矯正しましょう。

<馬鈴しょ>

1 収穫時の注意

- ・ 収穫作業は茎葉枯凋処理から7～10 日後に、いもの皮むけが生じないことを確認して、晴れた暖かい日に行いましょう。また、茎葉枯凋後7～14 日以内に収穫しましょう。
- ・ 収穫が早すぎると、収量、でん粉価の減少、皮むけなどの障害が発生する可能性があります。
- ・ 収穫が遅れると、黒あざ病菌核の増加や、腐敗、緑化等品質の低下が懸念されます。
- ・ 掘り取り後は腐敗を防ぐため、風乾を十分に行ってください。
- ・ 選別時や網コン等への投入時には、傷、打撲などがないように注意しましょう。
- ・ 高温時の掘取りは品温が上がり、貯蔵後の腐敗に繋がるので注意してください。

※茎葉処理方法については 8/1 付農業技術情報参照

<豆 類>

1 小豆の「菌核病」「灰色かび病」防除

小豆は登熟が進んでいるところですが、まだ収穫まで期間があり菌核病や灰色かび病の発生が目立つ場合は、収穫前日数に注意しながら防除を行ってください(表6)。

表6 小豆「菌核病」「灰色かび病」防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)	炭そ病
ミギワ 10フロアブル	52	1,000	7日	3回	○
パレード 20フロアブル	7	4,000	前日	3回	×
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	2,000	7日	3回	○

※薬剤耐性菌の出現を防ぐため、できれば前回と違う系統の薬剤を選択しましょう

2 小豆の「アズキノメイガ」ほか害虫防除

害虫についても、まだ収穫まで期間があり発生が目立つ場合防除します。収穫前日数に注意しながら対象害虫に応じて防除薬剤を選択します(表7)。

表7 小豆「アズキノメイガ」等害虫防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)	アブラ ムシ類	アズキ ノメイガ	ナミハ ダニ
フェニックス顆粒 水和剤	28	2,000～6,000	7日	2回		○	
カスケード乳剤	15	4,000	7日	2回		○	○
マブリック EW	3A	4,000	7日	2回	○	○	
ゲットアウトWDG	3A	3,000	7日	3回	○	○	
ペイオフME液剤	3A	2,000	7日	3回	○	○	

3 小豆の収穫

平年より早い成熟期が見込まれます。収穫適期の目安は「熟莢率」で判断し、過熟粒にならないよう適期収穫に努めましょう(表8)。

表8 小豆の収穫適期の目安(H14・H16 中央農試 H9 十勝農試)

区分	収穫時期の目安	収穫早限の目安
ピックアップ収穫	熟莢率 100% (子実水分16～18%) 完熟期(熟莢率 100%)から 2週間以内	熟莢率 80%、子実水分 25%程度
ダイレクト収穫		①汎用コンバイン(4条)～熟莢率 90%、子実水分 25%程度 ②豆用コンバイン(2条)～熟莢率 80%、子実水分 25%程度

野 菜

<病害虫発生予報(9月)>

全道病害虫発生予報情報(9月)です(北海道病害虫防除所発生予察情報より)。

1 あぶらな科野菜

①コナガ コナガ 発生量: やや少

9月のコナガの発生量は【やや少】と予想されています。ジアミド系薬剤(RACコード28)の感受性低下を予防するため、本系統を含む薬剤の使用はコナガ1世代あたり1回以内にしてください。

②ヨトウガ ヨトウガ 発生量: やや多

ヨトウガの発生期は【平年並】、発生量は【やや多】と予想されています。

③軟腐病 軟腐病 発生量: やや多

軟腐病は高温多雨条件で発生しやすくなります。耐性菌の発生を防ぐため同一系統の薬剤を連用しないようにしてください。

<ながいも>

1 強風による「つる切れ」防止対策

茎葉量が最も多い時期です。強風などによる「つる切れ」防止のため、支柱の補強やネットの「たるみ」の点検や補強を行ってください。

2 トレンチャー溝の陥没

ほ場の陥没は、「滞水」や「奇形いも」の発生の原因となります。地上部の陥没が見られなくても水の流れなどで地下部に空洞が発生する場合があります。特に入口付近に陥没が見られた際は早期に通路の土で埋め戻すようにしてください。

多忙な農繁期における農作業事故防止に努めましょう!

作業の遅れを取り戻そうとする“あせり”に注意

ばれいしょや豆類の収穫などが重なり、心身の疲労が心配されます。一層の農作業事故防止に努めましょう。

☆トラクタ発進・PTO 始動時は、クラクションなどを鳴らし周囲に合図する。

☆機械の調整・整備時(つまり物除去等)は必ずエンジンを止める。

☆機械の飛び降り・飛び乗りをしない。エンジンを停止してから乗降する。

☆夕方や夜間に公道を走行する場合は、車幅灯を取り付ける、早めの合図、低速車マーク・反射シールをはるなど、トラクタの位置や作業機の大きさを知らせるようする。

☆オペレーターと選別作業者との合図(動き出し・緊急時)を決めておく。

☆PTO 駆動部には近寄らない。安全カバーを取り付ける。

☆自動操舵による運転であってもオペレーターは運転席を離れない。

